

矢作ダムだま。



今号の表紙



福寿の里 モンゴル村

[岐阜県恵那市上矢作町]

「ゲル」と呼ばれるモンゴル遊牧民の移動式住居を使った体験キャンプ施設。モンゴルから運ばれたゲルが18棟建てられ、4/25から10/15まで宿泊することができます。また、モンゴル民芸品の販売のほか、民族衣装の貸し出しも行っています。

●問い合わせ・予約先

福寿の里 モンゴル村 / TEL.0573-47-3010

特集

貯水池の堆砂対策

連載

- ダム周辺及び流域市町村を結ぶ / リレートーク④ 愛知県稲武町
- 矢作川流域の方々との出会いをつづる / 流域オンライン④ 矢作川水系森林ボランティア協議会
- 矢作ダム最新情報 工事情報 / 台風23号災害復旧工事を実施します。他

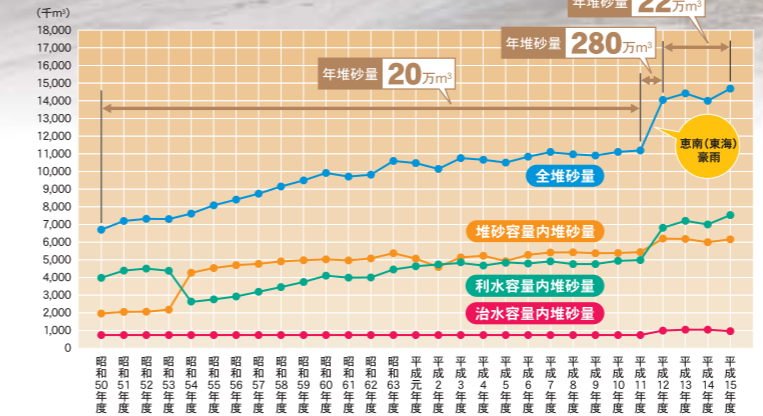
このままでは矢作ダム本来の機能を損なう恐れのある矢作ダム貯水池の堆砂問題。貯まった土砂を取り除く作業を行うとともに矢作ダム貯水池総合管理計画検討委員会など地域の方々と共に今後の矢作ダムを検討しています。

建設後、30年以上を経過している矢作ダムは、数々の洪水をせき止め、下流域を水害から守ってきました。しかし、その際に、激しい雨や川の流れに削り取られ、ダム湖に流れ着いた山々の土や砂が、現在、本来のダム機能を損なう恐れがあるほど大量に堆積しています。特に平成12年の恵南（東海）豪雨では、通年の14年分にもなる約280万³mの土砂が一度にダム湖に流れ込みました。今号では、堆砂の現状と今後の対策についてご説明します。

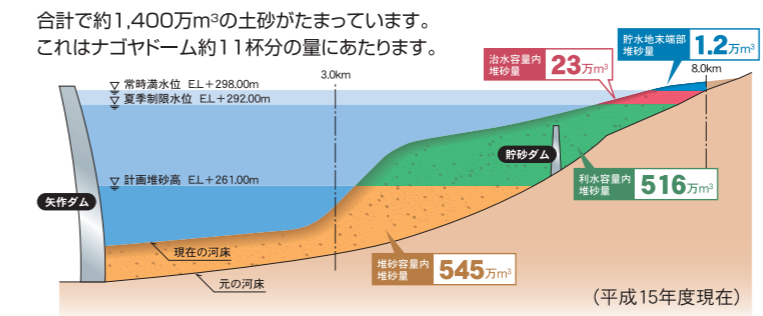
ダム湖に土や砂がたまってしまおうと、下流で水害が起きないようにダム湖にためおく水の量や水道や田畑、工場で使うための水の量が少なくなってしまう。足りなくなったら大変ダ！



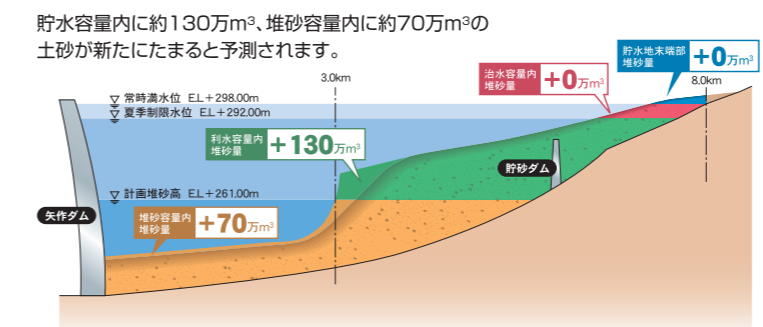
■堆砂量の推移



■現在までにたまった土砂の量は…



■今後10年間無対策でいると…



緊急対策



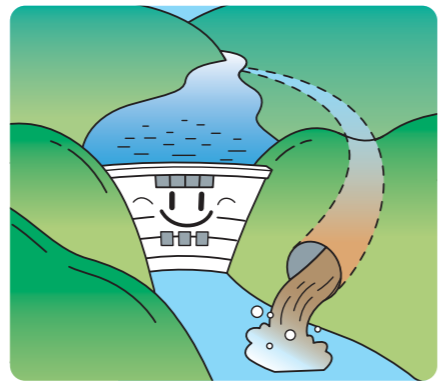
現貯砂ダムの機能回復を検討しています。

現在の貯砂ダムにすでにたまっている土砂約60万³mを取り除くと、堆砂容量約18万³mを確保することができます。また現在の貯砂ダムの高さを2m程度高上げると堆砂容量約35万³mを確保することが試算されています。



完成当時と比べて、今の貯砂ダム付近はすっかり土砂におおわれています。

長期対策



土砂バイパス水路などを検討しています。

ダム湖上流とダム下流をつなぐ土砂バイパス水路をつくり、土砂を本来の状態に戻すことなどを検討しています。また、水位低下操作をくり返し、利水容量内の堆積土砂を堆砂容量内に移すことで、利水容量を確保することも検討しています。

貯水池内の土砂処理対策



陸掘可能区域の土砂を取り除きます。

恵南（東海）豪雨の際に堆積した陸掘可能な区域の土砂（約100万³m）を取り除きます。取り除いた土砂は、川や海など本来の流れ着く場所へと戻していく実験を行っています。

取り除かれた土砂を三河湾まで運び、『干潟』を再生させる実験を行っています。

大雨による土砂流出の原因のひとつには「山の荒廃」があるといわれています。倒木や土砂崩落の少ない健全な山づくりのために、針葉樹の間伐など山の保全を積極的に実施しなければなりません。
●今号の「流域オンライン」で水源地域で山の保全に取り組む「森林ボランティア」の話題を取り上げています。ぜひご覧ください。



今回は、矢作ダムをとりまく環境問題に対して熱心な質問がたくさん寄せられました。

分画フェンス（浮沈部）の長さ、フェンスの高さ等は何のくらい？ また一般部と分画部の比率は？ またフェンスを下げる方法は？ ダムからの距離は？

岡崎市／長原豊次さん(会社員)

分画フェンスはダムより上流2kmに設置し、フェンスの長さ320m程度（兩岸距離は200m程度）、浮沈部は80m、高さ15mです。分画部の比率はダム上流を8kmとしますと1/4程度になります。フェンス操作は矢作ダム管理所にて遠隔操作ができますが、緊急の場合は現地でも操作可能です。

上矢作流域全河川最上流部まで川より20m以内についての木をすべて雑木林にして欲しいと思います。その方向付けを。

稲武町／西尾和也さん(会社員)

たぶんダム上流域の保水性の良い雑木林にすることにより、河川流域の保全として効果があるのでそのようにしたらとのご意見だと推察しますが、言われる通りだと思います。しかし、個人の土地所有等の問題があり難しいのが現状です。

ダムが濁る原因の方が気になります。水源基金を活用して山林の手入れをしていますが、まだまだ手入れ不足の山ばかりです。必要性を下流の人にわかりやすく伝えて欲しいです。

額田町／匿名希望さん(会社員)

貴重なご意見ありがとうございます。そのためにもこの「矢作だむっこ」を上流と下流の交流の場にしていきたいと思しますので、ご意見やご提案などをどんどんいただき紹介していきたいと思います。

ダム内に溜まった土砂の排出方法とどの期間をかけてするのか、そして土砂の処分(利用)方法は？

日進市／匿名希望さん(会社員)

矢作ダムが完成して33年が過ぎています平成15年現在で矢作ダム湖内には約14百万³mの土砂が堆積しています。(詳細は今号を参照)搬出方法は直接バックホウで掘削する方法と船で浚渫する方法があり、掘削する場所により選択することになります。その掘削する期間ですが事業の必要性により決定されます。土砂の処分方法としては、現在近隣の埋め立ての他、実験中ですが矢作川や三河湾に仮置土砂実験をしており、その結果と経済性から今後の方針を決めていきたいと思います。

矢作川に生息している魚について知りたいのですが？

足助町／匿名希望さん

矢作ダム湖の中には、在来種であるフナ、コイ、オイカワなどが生息していますが、近年では外来種のブラックバスやブルーギルなども心ない人たちが放流したために生息しているようです。上流に行くとアユ、アマゴ、イワナなどの清流魚が生息しています。ただし、アユは漁協が養殖して放流をしています。

愛知県 稲武町

どんぐりの里づくりで町の活性化をはかる 出会いとやすやぎのまち

太田 雅清 町長



道の駅が地域の誇りであり 自信でもある

町の自慢はなんと言っても「道の駅『どんぐりの里いなぶ』」。温泉、物産などを合せて現在、年間で60万人が利用しています。それまでの稲武町は、「いなぶ」「じゃなくて」「いなたけ」と呼ばれるくらいでした。『これが稲武町』というものを作りました。今ではこの「道の駅」が地域の方々の誇り、自信につながっています。

合併後、稲武がより良く変わるよう種まきを続けています

平成15年10月に稲武町は北設楽郡から東加茂郡に編入。生活圏が豊田であるにもかかわらず、なぜか愛知県の行政区域だけが『北設楽郡』だったという不条理。このことは地域に住む人しかわからない重要な課題でした。

現在は、市町村合併後の稲武町がより良く変わっていきけるための種まきを続けています。交流拠点の核となる道の駅はすでに完成。滞在型の市民農園を準備中で、古民家を移設する体験交流施設は平成16年度内には完成します。

治水の重要性を下流域に理解してもらおうことが難しい

行政に携わる前は農林業を30年。私自身が林業で行く末を見てきましたから、単純に「地場産業だから林業の活性化を」とは、二度も言ったことはありません。今は公的な機関が国民の財産として森林の環境保全を図っていく時代

にきているような気がします。町内には、間伐が必要とされる五十年生未満の山林が四千数百ヘクタールあり、間伐実施の10年計画を立てている最中に恵南(東海)豪雨が発生してしまった。あのダム湖に貯まった流木がもし下流にまで流れていたら、きつと堤防決壊程度では済まなかったんじゃないかと寒気がします。この治水的な重要性を下流域に理解していただくことが非常に難しい。また、その原因をさかのぼると先ほどの林業にまでたどり着くのです。

下流のみならず行楽に来て、ゴミや空き缶を川に捨てれば、それは自分たちの生活水を汚していることになる。また、私たちが汚せば汚れた海産物を手にすることに繋がるという意識。流域はつながんだという連帯感が大切ではないでしょうか。

『意あるところに道あり』やる気があれば道は開けるというのが町長のモットー。もともとアウトドア志向から、趣味は釣りに狩猟、おつきあい程度のゴルフだそうです。

道の駅「どんぐりの里いなぶ」

露天風呂を備えた「温浴ゾーン」や水着で入れる「健康クアゾーン」で家族いっしょに楽しめる『どんぐりの湯』、毎朝届く地元の新鮮野菜が人気の『直売施設 どんぐり横丁』からなる観光交流拠点。年間60万人を超える利用者が訪れています。

●定休日/毎週木曜日
(祝祭日の場合は翌日)

●営業時間/[どんぐりの湯]10:00~21:00(土曜日9:45~、日曜日9:30~)
[どんぐりの横丁]10:00~17:00(土・日・祝は~18:00)



瑞龍寺のしだれ桜

樹齢360年余、県天然記念物に指定されています。一時は枯れてしまう危険もありましたが、地元の方々の力で蘇らせることに成功、境内からあふれんばかりに枝を伸ばし花をつける様子は必見です。毎年4/5~20には桜まつりが開かれています。



お問合せ先

稲武町役場企画課

〒441-2513 愛知県東加茂郡稲武町大字稲橋字竹ノ下1の1
TEL.0536-82-2511(代)

昭和15年稲橋村と武節村が合併して誕生、町の総面積の約87%を森林が占める町内には、名倉川や野入川、黒田川、小田木川など『矢作川の水源地』となる河川が流れる文字通りの「森と水のまち」。古くは宿場町として栄え、また今日では、国道153号と国道257号の2つの国道が交差する三河山間地における交通の要衝となっています。近年は、豊かな自然環境とふれあえる観光レクリエーションの場を求めて、都市部から訪れる人も増えています。

地域の活性化をはかるため、豊かな自然環境を活かした交流活動・産業振興の拠点施設整備を進めるなか、建設地から約三千年前に縄文人が食糧として貯えたとみられる「どんぐり」が多量に出土したことから、各施設の名称の統一を図るなど、「どんぐり」にちなんだまちおこしを展開。平成10年に稲武温泉「どんぐりの湯」、翌年に道の駅「どんぐりの里いなぶ」「どんぐり横丁」が完成し、稲武町は「通過のまち」から「交流のまち」へと着実な転換を見せています。また、どんぐりなどの広葉樹に象徴される自然景観に配慮した「どんぐりの里づくり」を町内全域へと展開しています。

平成17年4月1日には、矢作川を中心とした都市と農山村の交流・共生を目指して、豊田市、藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町との市町村合併が予定されています。

矢作川水系森林ボランティア協議会



今回、取材をさせていただいた足助町の人工林は、植林後、一度も手入れされたことがなく、一見して分かるように、弱々しいスギ、ヒノキが密生し、暗い山の中には下草がほとんどない状態でした。



技術や知識のレベルアップ、会員間の交流などを図るための『合宿』では、専門講師を招いたレクチャーも開かれています。



現地調査の後、計算式を使って『理想の山の姿』を算出。山主さんの要望などを加味して間伐計画を立てていきます。



間伐計画に基づいて選木。細く弱々しい木、曲ってしまっただけの木材として利用価値の少ない木から伐っていきます。選木は、間違っただけで伐ってしまうようなキチンと印をつけていきます。

お問い合わせは

矢作川水系森林ボランティア協議会
TEL.090-4160-9065



間伐などの山仕事を通じて 森林の再生に取り組み

「矢作ダム湖を覆う大量の流木」。恵南(東海)豪雨の際に、みなさんを驚かせたダム湖の姿、その原因の一つには、矢作川上流に広がる『人工林』の荒廃があるといわれています。

山は「ほったらかしでいい」というのが一般的な考え、でも、植林などを通じて人間が手を入れて作った『人工林』は、人間がずっと管理し続けなければなりません。林業隆盛の頃に生まれた日本各地のそうした人工林は、ここ10年の内に手入れをし、健全な森林の姿を取り戻さなければ、『大雨や台風などで倒木や土砂崩れを起す危険がある』といわれています。

山を知らない山主さんへの『出張森林塾』

そんな現状を憂い、矢作川流域では5年程前から森林ボランティアグループが次々と誕生しています。『矢作川水系森林ボランティア協議会(通称・矢森協)』は、交流のなかった各グループの活動を今後、流域全体として見つめていきたい、単なる点的な活動を面的に広げていきたいと昨年の1月に結成されました。本来の『山仕事』は世代で繋がれていくべきもの。今の山主(やまぬし)さんの大半は山仕事の経験がなく、持ち山から遠く離れた街で生活する山主さんも大勢いるのです。

「矢森協の普段の活動は、山のことを知らない山主さんのためのいわば『出張森林塾』といったところでしょう。山主さんも一緒に作業を行い山仕事を学んでいく。一緒にやった経験を通じて山のことがかかってくる。今後、山主さん本人が管理するもよし、森林組合に依頼するもよし。そこまでのレベルアップ、橋渡しを協力するのが私たちの役目です」。

市民による『森林(もり)の健康診断』を実施

「私たち素人が間伐できる量なんて知れていません。だから、山主さんだけでなく、街の人に山の現状を知ってもらうための『啓蒙活動』は森林ボランティアの大きな使命。今年からは一般の方々も対象にした、『人工林の荒廃』を目で見て体感してもらおうための『森林(もり)の健康診断』の開催を予定しています」。

矢作川流域100箇所を目標に実施される『森林(もり)の健康診断』。このような市民による人工林調査(観察)は全国でも前例がないのだそうです。調査結果はもとより、かけがえのない自然とのふれあいから生まれる、森林再生への願いが流域全体へと広がっていくことを私たちも期待せすにはいられません。

「まずは山の健康診断から」と人工林の健全度(荒廃度)を調査測定しカルテを作る『山林(やま)の健康診断』、『森林(もり)の健康診断』は、同様の調査を一般の方々と共に流域全体で展開するものです。



矢作ダム 最新情報

多くの災害が発生した昨年、
矢作ダム湖も例外ではありませんでした。

観測史上最多となる10個の台風が上陸するなど、昨年は私たちの記憶に残る『災害の年』、台風23号ではダム湖の斜面が崩れるなど、矢作ダム周辺もその例外ではありませんでした。今年度より、台風23号の災害復旧工事を実施します。より安全で豊かな暮らしを支えるため、整備を進めてまいります。ご協力をお願いします。

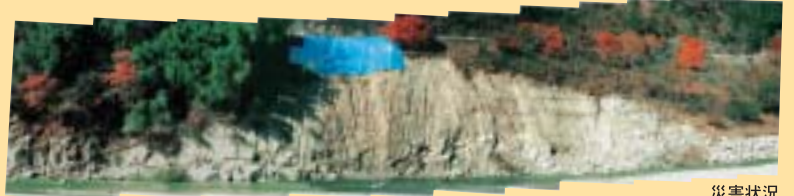
工事情報

台風23号の災害復旧工事を実施します。

昨年10月20に東海地方をおそった台風23号による大雨のため、岐阜県恵那市串原相走地先のダム湖内斜面が、距離約200mにわたって崩落しています。矢作ダム管理所では、平成16年度から平成17年度まで、崩落箇所を護岸で補強する災害復旧工事を実施します。工事期間中は、通行規制や工事用車両などの通行で、地域の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

台風23号上陸の際の矢作ダムの洪水調節

台風23号は、矢作ダム流域に平均約190mm(累計)、多いところでは黒田ダム観測所で約300mm(累計)の雨をもたらしました。矢作ダムでは、洪水流量のピークで毎秒約620m³の流量をダムに蓄えて洪水調節を行いました。その結果、下流の岡崎市岩津(矢作川河口より29km上流地点)で推定6.22mとなる水位を5.64m、約60cm低下させることができました。



災害状況

選択取水設備工事のため ダム湖の水位を下げています。



水位を低下させるため放流を行う矢作ダム。24時間体制で川やダム状況を見守りながら放流作業を行っています。

現在、ダム湖の水位が例年より下がっていることをお気づきになりましたか。これは、ダムの水を下流へ流す際の取込み口である『選択取水設備』の塗装工事などを行っているためです。この工事には作業員が水中に潜る必要があるため、作業員の安全確保や作業効率を上げる目的で昨年の10月中旬から水位を標高281m以下にしています。3月上旬には工事完了を予定していますので、それ以降は、利水容量(かんがい用水、水道用水、工業用水、発電に利用するために確保した容量)を確保するために貯水を行う予定です。

取り除いた『堆積土砂』を 再利用しています。



矢作ダムの堆積土砂を利用して駐車場を整地します。

ダムの本来の機能を損なう恐れのあるダム湖の『堆砂問題』。現在、陸上からたまった土砂を取り除く作業を行っています。また、取り除かれた土砂は、岐阜県恵那市串原の『ささゆりの湯』に運ばれ、新しい駐車場の整備に再利用されています。



国土交通省中部地方整備局 矢作ダム管理所

〒444-2841 愛知県東加茂郡旭町大字閑羅瀬字東畑67
TEL.0565(68)2321 FAX.0565(68)2328
(ホームページアドレス) <http://www.cbr.mlit.go.jp/yahagi>

編集後記

矢作ダム管理所広報誌「矢作だむっこ」を読んでいただきありがとうございます。これからもみなさまが矢作ダムについて知りたいと思っていること、興味を持っていることを取り上げていきたいと思っています。今号にもアンケート葉書がついていますので、是非みなさまのお声を聞かせください。

●矢作ダム管理所広報誌「矢作だむっこ」は以下の場所で入手できます。

愛知県／旭町、稲武町、下山村、足助町、藤岡町、小原村、豊田市、岡崎市、碧南市、安城市、西尾市、一色町、吉良町、西三河農林水産事務所、豊田加茂建設事務所、西三河建設事務所、知立建設事務所
岐阜県／串原振興事務所、上矢作振興事務所、恵那建設事務所 長野県／根羽村、平谷村

この広報誌は再生紙を使用しています。